

令和7年度第3回第4次子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

1 開催日時

令和8年1月29日（木） 10:00～12:00

岐阜県庁 3階会議室にて開催

2 概要

「第4次子どもかがやきプラン アクションプラン2026（案）」の施策内容について、意見を聴取した。

3 委員から出された主な意見

<政策Ⅰ 多様なニーズに応じた学びを支える環境の整備>

- ・人口自体は減っているにもかかわらず、障がいのある子どもの数は増えており、特別支援学校についても同様であり、小中学校の特別支援学級の児童生徒数は増加している。来年度も教室は満杯の状況で運営せざるを得ない特別支援学校がある。
- ・高等特別支援学校機能の整備のうち、施設整備には費用も時間もかかるが、教育内容や入試制度は比較的早く策定できる。未整備の地域にも対象となる生徒はいるため高等特支機能の教育内容の結論を出すことが求められている。
- ・医療的ケア児の通学支援について、委託での支援は非常に良い取組であるが、看護師の勤務状況を踏まえると、東濃や飛騨といった地域にまで対応が広がるのか、人的配置の面から心配している。
- ・「検討します」という表現が多く、いつまでに何をどれくらい進めるのかという具体的な数字や目標が示されていないため、評価がしづらい。進捗状況の記載も同様で、評価を公表しているのか、その振り返りも含めて分かりにくい印象がある。

<政策Ⅱ 多様なニーズに応える学びの場の充実>

- ・発達障がいのある児童生徒等の学びの充実について、巡回通級指導の機会を最大限活用できるよう、高等学校側で計画的に運用する必要がある、機能不全とならないよう、高等高校側の理解と体制整備を進めるべきである。
- ・発達障がいのある生徒の学びの充実について、生徒の実態は把握されているものの、本人・保護者が受け止められないことによる支援の壁が大きく、学校側が踏み込みづらい状況がある。
- ・就労支援コーディネーターについて、高校側の認識が十分でない場面が見受けられるため、高校の先生方がより理解して活用できるようになることが望ましいと考える。

<政策Ⅲ 学びの場を支える教員の専門性向上>

- ・教育の専門性はすぐに身に付くものではなく、専門的な知識や技能の習得には時間がかかると感じている。今回新たに設けられた研修は非常にありがたく、必要な取り組みだと考えている。
- ・高校の発達障がいのある生徒への指導は、巡回通級担当教員に頼っているが、今後インクルーシブ教育の流れで、高校の教員も巡回通級担当教員と同程度の指導ができるような研修や体制づくりが求められる。
- ・進路や将来を考える中で、高校を選ぶ際に迷われる方も多く、支援が十分得られず退学してしまうケースもある。誰もが現場の状況に即した支援を受けられる環境を

整えてほしい。

<特別支援教育全般について>

- 政策文書の整合性の観点から、第4次子どもかがやきプランでもキーワードとなっている「インクルーシブ教育システム」という文言を記載したほうがよい。
- 個別の支援計画の体裁が統一され、先生方の負担が軽減されているということを知り、より指導に専念できる仕組みが進んでいるのは、よいことである。